

令和 7 年度 第 1 回鹿児島市清掃事業審議会 会議概要

【日 時】

令和 7 年 7 月 8 日（火） 14 時 00 分～15 時 38 分

【場 所】

市役所東別館 9 階 特別中会議室

【出席委員】

井上会長、飯塚委員、永徳委員、川崎委員、倉元委員、末永委員、田尻委員、
鶴田委員、平委員、三原委員、宮竹委員、柳井田委員、山崎委員、吉原委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 環境局長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 報告事項
 - ①第四次一般廃棄物処理基本計画に基づく令和 6 年度実施状況について
 - ②令和 7 年度資源循環部事業概要について
 - (2) その他
- 5 閉会

【議事概要】

① 第四次一般廃棄物処理基本計画に基づく令和 6 年度実施状況について

委 員：家庭ごみの分別を細かく指定しているが、その分別をさらに細かくしたら、
ごみの排出量自体は減るものなのか。

事務局：分別によって、燃やせるごみ、燃やせないごみ、資源物を合計した一般廃
棄物総量は変わらないが、資源物が増えることで、最終的に処分するごみ
の量は減らすことができる。

委 員：プラスチック資源循環推進事業において、試験的にプラスチック製品の収
集を行っていたが、何か課題があったのか。

事務局：現在、分別収集を行っているプラスチック容器類とは別に、プラスチック
製品のみを収集する場合は、新たに収集体制を構築しないといけないほか、
処理残渣が多く発生することが課題である。
また、プラスチック容器類とプラスチック製品を一緒に収集する場合は、
一度に処理する量が増えることから、人的・設備的な処理体制の構築が課
題である。

委 員：フードシェアリングサービスはこれからどんどん広げていく方向にあるの
か。このような取組は、お店の経費も削減できるし、物も無駄にならな
くて済むし、いろんな意味でメリットがあると思う。

事務局：昨年、食品ロス削減計画を策定したばかりであるが、これからいろいろと食品ロスの削減に向けて取り組みを進めていきたい。多くの店がこの取り組みに参加いただくことで、利用登録者数も上がり、マッチング率も高まっていくと考える。

会 長：フードシェアリングサービスの登録者数に大学生がどのくらいいるか分かるか。

事務局：具体的な資料はないが、当初の周知の際、小学校を通じて保護者に案内をしたが、大学を通じたアプローチは行っていないため、登録者は少ないと思われる。

会 長：その辺は今後検討してもらいたい。

委 員：人口が減ったことが、家庭ごみの１人当たりの量が減った原因ではないかと思うがどうか。

事務局：人口減はごみの総量に影響するが、ここで算出しているのは１人当たりのごみ量であるため、人口増減は関係ない。

委 員：廃食油をトラックとか自動車等の燃料に有効活用している自治体があることを聞いている。そのような処理ができる企業に依頼し、処理してもらって、それを売却するとかなりのお金になるのではないか。

事務局：本市の取り組みに活用できるかどうかも含めて、詳しく調査をさせていただきたい。

② 令和７年度資源循環部事業概要について

委 員：生ごみ処理機の補助金が少なくなっている。予算が限られているということはあるが、工夫をして多くの人が使えるように考えてもらいたい。

事務局：５年度は１人１日の家庭ごみの削減目標の達成に向けて追加の予算措置を行ったが、６年度は予算の上限に達した時点で受付を終了し、補助件数が少なくなっている。７年度については、補助の上限を３万円から２万円に引き下げ、より多くの方に補助できるようにしたところである。

委 員：自分たちで捨てられるダンボールの回収場所が増えている。実際はそれも家庭から出るごみであるが、家庭から資源物は実際出ているのに、資源化率が低い状況になるため、その辺を加味して目標値を算出したほうが良いと思う。

会 長：どういう数字の出し方が今後の施策を進めていく上で適切なのか、今後、事務局のほうで検討してもらいたい。